

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200825		
法人名	株式会社 富士見プロジェクト		
事業所名	グループホーム さくら2号館 (1階ユニット)		
所在地	静岡市清水区蒲原中302-1		
自己評価作成日	令和6年9月2日	評価結果市町村受理日	令和6年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/a/Open?OpenAgent&amp;JNO=2294200825&amp;SVC=0001096&amp;BJN=00">https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/a/Open?OpenAgent&amp;JNO=2294200825&amp;SVC=0001096&amp;BJN=00</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和6年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年8月2日に1階ユニットオープン。平成23年4月16日に2階ユニットオープンの施設です。JR蒲原駅から約徒歩5分、国道一号線富士由井バイパス蒲原西出口からもほど近い場所にあります。1年を通し日中は日当たり良好な駐車場や玄関にて日向ぼっこをしたり、イベントを開催しています。地区のお祭り際には当ホームの駐車場にて踊りを披露して下さったり、定期的に地区のボランティア様、不定期ですが散歩中の園児たちが来所して下さいと地域の方々に支えられています。また、シニアサポーターの様々なグループの皆様にも披露やお手伝いをしていただいています。医療面でも提携病院との連携体制や受診支援等により利用者様ご家族様に喜んでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の皆さんとの交流とそのご縁を大切にしている事業所です。応援者として最も心強いのは元・自治会長とその奥様で、毎年の「子どもみこし」では駐車場を休憩場として提供することで踊り披露につながっていたり、「お菓子の詰め合わせを配りたいのだけど」といった問い合わせの窓口にもなっております。他にも植木鉢に花を植える活動を季節を問わず継続して下さる団体や舞踊や手品のボランティア訪問等々、地域の温かな思いやりに包まれた安寧があります。また管理者は書類に関する整備が高く、質問したことに関して「それはこの書類です」と、探すことなく提示して下さることには大いに安心感を覚え、信頼が膨らみました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員から募集し、タイムカードの上に展示し毎日職員が見る事により、共有を図っています。職員個々の意識の差はありますが、職員同士の声掛けにより意識が高まっています。	職員の声掛けに差があり、その原因の一つとしては「他事業所からの転職者は以前の職場経験が表れてしまっている」と管理者は考えています。また臨機応変に対応できる人とそうでない人の力の差もあり、一朝一夕には理念の浸透が難しい状況にあります	「理念に基づく目標をつくり、それを事務所に掲示して、お互いに理念が実現できる(=自身の課題が解決する)」といった、相互支援の仕組みが生まれることを期待します
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスの5類移行後、地域のイベントも再開してきました。参加できる範囲での参加をしています。	地域情報を都度届けてくださる元・自治会長や、事業所の庭に花を植えたり鉢植えの整備のほか、育て方の助言もくださる集団があります。どのような団体かは確認できていませんが、管理者は「いつも花壇がにぎわっているので嬉しい」と感謝しています	花の世話を定期的におこなってくださる皆さんの団体名は知っておいたほうがよいかと思います。また昼食に招待したり、感謝状やお礼のカードを渡すなどの交流の拡がりも期待します
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際には、自治会長、地域包括の方を通して認知症に関する相談等随時受け付けている旨を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の意見を聞いてサービス向上の参考にしています。最近では防災関連の話をしています。評価への取り組み状況等についてスタッフ会議で取り上げ話し合っています。運営推進会議は2ヶ月に1回奇数月に行っています。	自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員が毎回出席して下さり、奇数月を開催月として隔月の運営推進会議が成り立っています。令和5年11月開催はやむを得ず休会となりましたが、その理由はメンバーにも報告されています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出の際の電話や郵送でのやり取りが多いです。それ以外での日常的な連携は不足気味ですが、地域包括センターを招き運営推進会議を実施しています。(2週間前に参加依頼を直接持参して情報交換をしていますが新型コロナの感染状況で書面でのやり取りを知る時があります)	空室照会は、共立蒲原総合病院や地域の介護支援専門員、家族からの直接の相談が増えています。数は地域包括支援センターからが抜かれています。ただし生活保護者が多く、法人の方針で受入れ不可の為、入居には至っていません	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしていますが、職員が2人介助等によりフロアの見守りが出来ない時、明らかに離脱等危険があると判断した時のみ、短時間施設することがあります。	「身体拘束等の適正化のための指針」に基づいて身体拘束適正化検討委員会が四半期に1回開催され、虐待防止検討委員会は半年に1回おこなうとともに、研修会も実施され、運営基準に準じています。またメンバー以外の供覧印とスタッフ会議での共有もあります	命令や指示口調の職員には、研修時に利用者の席に座ってもらい、他の職員からその人と同じ言葉を投げかけてもらい、体験を通した気づきを求めていくことを期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払っている	利用者の状態観察、異常の発見時の報告・記録を徹底し事業所内での虐待が見過ごされないように、職員同士が声を掛け合い注意を払っています。年2回の虐待防止検討委員会を開催し、同時に研修会を行っています。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	系列病院の看護師のアドバイスを受けています。本年はなかなか参加出来ていません。(オンラインでの開催が増えていますがなかなか参加出来ていません。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文章で説明は十分に行い理解・納得していただいています。(不明な点が後日あれば遠慮なく連絡をしてくださいと伝えています。)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対してはケアプラン説明時や電話連絡時や面会時等に意見・要望を伺っています。利用者に関しては管理者からの直接の聞き取りや、職員が要望を聞いた際の報告を通じ意見・要望を伺い必要に応じ運営に反映させています	「さくら2号館便り」を毎月発行しており、前文は事業所の取組を記載して共通内容なもの、「生活機能向上プラン」と「〇〇様のご様子」と題した項目では、利用者個別の情報を載せています。一方、写真がないことで臨場感が薄くなっていることは否めません	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談、アンケートを通じて職員の提案や意見を聞いて、必要に応じて反映させています。	JRで9つの駅を超えて通う職員は、育休から復帰しましたが再び妊娠がわかって今後産休と育休を取得する予定で、働きやすい職場であることを有難く思うと述べており、また意見を吸い上げる機会としてスタッフ会議や個人面談シート、個人面談も機能しています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、面談を行い人事考課制度を通じて、職員個々の実績や能力に応じた評価をして向上心を持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を支持し、職員個々の実績や能力の向上を進めています。(少ないですが少しずつ出来る様支援しています。)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流は出来ていません。研修などがあれば積極的に参加し交流を勧めたいです。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に対する不安に配慮しながら、傾聴し少しでも早く安心して生活できるように全職員意識して努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時や見学時に良く話を聞いて、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時やアセスメント時に本人と家族の意向をよく聞き、当ホームの方針を説明し、他施設・他サービスも考慮して状況に応じた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員によって意識の差はありますが、食事や家事を共に行い、共生を意識しながら関係構築をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所として出来る事出来ないこと、家族でなければ出来ないこと等を入所前に説明し、家族と職員が共に本人を支えていけるようにしています。家族が気軽に面会に来れる雰囲気作りやイベントの告知をし、参加を促し絆造りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染移行後、面会の緩和も予定していましたが施設での感染状況や他の施設及び病院などの面会状況などを参考にしています。今現在は玄関先での面会をお願いしています。(書類など本人の記入が必要な時には事務所で行って頂いています)	法人の方針に沿って面会は玄関先でおこなっていますが、居室までは入れないものの家族との再会は叶っています。感染症が所内に発生した場合は制限がかかる為、訪問が頻繁な家族には状況を都度伝え、無駄足にならないよう配慮しています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関わりを持ちながら、孤立する事なく円滑に人間関係が築けるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族がなかなかGHIに来られませんが、地域の利用者が多いので街中で家族とお会いすることもあります。その際には退所された利用者の様子などを伺っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時意向や思いの把握に努めていますが、困難なケースが多いです。家族の意向を考慮しながら本人本位になるように担当職員を中心に全職員で会議等で計画作成の為の話し合いをしています。	利用者同士で相性が合わない人がいて、1階から2階に移ってもらったら落ち着いたという事例もあります。「環境を変えて穏やかに過ごす」ことへの意識は高く、「人を替える」「時間を置く」「好きなことに誘う」ということが日常のケアサービスに浸透しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に極力把握出来る様に努めています。他にもご家族や友人が面会に来られた時、生活歴を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な記録・申し送りの他に状態変化の見られる方については、随時報告・連絡・相談を心掛けています。申し送りノートやスタッフ会議での職員間での情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはご本人・御家族の声を頂き、どこで暮らしたいか又サービス内容で何が未達成なのか明確にしています。担当スタッフの介護計画への関りを持ち長期目標・短期目標の達成を意識させています。	ケース検討は毎月おこない、モニタリングは半年に1回です。2階は介護支援専門員、1階は管理者とし、双方計画作成担当者です。長短目標の実施並びに達成については、「介護サービス実施記録」に取組むことで日々確認につなげています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス実施記録を作成し日々、適切にサービスが実施されているかスタッフが項目毎に押印し月末に何が未達成なのかを明確にし短期目標の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族のニーズに対応し、柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿える様に支援しています。提携病院での受診を希望される場合は、付き添い介助をしています。その他の病院を希望される方はご家族対応で受診していますが、都合がつかない際には職員が付き添い介助しています。	系列病院の医学療法士の指導を「生活機能向上プラン」として毎月の通信の中に組み込み、「利用者がどのような状況にあるのか」「そのためにどのような援助していくのか」報告していることから、「どのような状態なのかが分かりやすい」と家族の感想が届いています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康管理があります。他にも緊急時の対応指示を仰いだり、報告・連絡・相談を行ない看護師と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も連絡をとり状態把握に努め、入退院時の連携がスムーズに行えるように、情報交換や相談等病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の対応について話し、事業所として出来る事・出来ない事を説明し同意を得ています。また、重度化となる前の段階で家族と話し合う機会をもち、医療機関を紹介するまでの支援をしています。	入居相談の時には「系列病院や施設があるので看取りの心配はしなくて大丈夫です」「介護難民にはならないです」と伝えていますが、更に契約時には「重度化した場合の対応に係る指針」を以って改めて説明をおこない、同意書をとっています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	R 6, 5月に施設内での避難訓練を行いました。今回は消防署や地域の方の参加は控えました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の事業所での防災訓練の他に、地区での防災訓練に参加しています。またその際に夜間訓練を想定し連絡簿を使いスムーズに状況説明ができる様に訓練しています。(新型コロナウイルス対策の為他事務所での訓練の開催が中止になっています。)	「地震発生時には津波や地割れ、建物倒壊が周辺で起こることが予測される為、2階への垂直避難が良い」といった事柄が運営推進会議において協議されています。また「地域の高齢者を一時的に受け入れてもかまわない」と、地域包括支援センターには伝えてあります	内部における訓練や連絡網は整備されています。今後は家族の安心を保障する為にも、災害用伝言ダイヤル171を利用者家族と試用することを期待します

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を指導していますが、言葉使いや態度が気になる職員もいます。	突然「家に帰る」と言い始め、何を言っても耳に入らない利用者には職員も困ってしまうことから、管理者が「間を置く」「興味のあるものを提供する」「人を替える」といった対応例を行動と言葉で伝えていて、職員は事例が幾つかあることで徐々に心得が出来てゆきます	食事中のタオルの前掛けは、恒常的になると尊厳を無視する意識を養うことになりかねない為、「他の方法はないか」「必要としない人はないのか」を改めて検討することを期待します
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを表現しやすい雰囲気作りをして、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的なスケジュールはありますが、利用者個々の体調や気分、状況に応じて個別支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら好みの服を着て頂いています。女性利用者の中には毛染めをしたり、メイクをしたりおしゃれを楽しんでおられる方もいます。(決められない方は2択などの工夫をしています。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の役割として同じテーブルの方の片付けをされる方もいます。可能な方は調理準備や食器拭きなど関わっていただくこともあります。職員と利用者が一緒に食べながら、楽しく安全に食事出来るように配慮しています。	法人から届いた献立表と食材で職員が調理していて、味付けは出汁を効かせ、また葉ネギや三つ葉を多様しており、地味豊かな献立が提供されています。利用者からは「寿司がいい」との声がたびたび挙がることから、テイクアウトで置き換えることもあります	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列病院の管理栄養士が献立を作成しています。食事量や水分量はチェック表で管理し過不足が無い様に支援しています。また、医師より塩分など控えるよう指示がある際には食事の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして、清潔保持に留意しています。洗浄剤による夜間の義歯洗浄も行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、日中はトイレで排泄出来るように支援しています。	平均介護度は2.6です。尿意を感じて独歩でトイレに向かう人は全体の3分の1程おり、2名が布パンツで夜もそのままです。夜間は特設睡眠優先としてはおらず、トイレに向かうために居室から出て来る人も少なくありません	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、適度な運動をしてもらい便秘予防に努めています。必要に応じ主治医・看護師に相談して薬の調節、食事形態の変更等個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決まっていますが、本人の希望や外出の予定等により、臨機応変な対応は可能。利用者のタイミングに合わせて入浴順や時間は適宜変更しています。	入浴は週2日、時間帯は午後を基本にしています。入居前に家では入っていなかったという人は最初のひと月はお風呂に入らなかつたりなどと拒否も見られますが、馴れてくると好きになってくださる利用者がほとんどです	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況に応じて、居心地の良い場所で休息出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み内服薬について理解する様に努めています。薬の変更があった際には申し送りノートで全職員が情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、床のモップ掛けや洗濯物たたみ等の本人の力を活かした役割をもつていただき、やりがいや喜びを感じていただける様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	良い天気時には外気浴を楽しんで頂いています。普段行けない様な場所にはご家族に協力をお願いしています。毎月の季節のイベントは室内で出来る事を企画して開催していますが今後野外でのイベントも考えています。	出かける時は1、2名の少人数です。すぐ目の前に海があり、周辺の散歩から海まで足を延ばすコースが定着しています。利用者の中には「日向ぼっこが良い」とか「行きたくない」という人もいて、気持ちを尊重して窓際から差し込む光を活用した日光浴で代替しています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行っていますが、本人の希望に応じて買い物代行しています。病院受診の帰りなど希望がある時には買い物に同行して支払いも本人がするように努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で広く開放的な共有空間で、思い思いに居心地よく過ごせるように配慮しています。室温・湿度の管理にも気を配っています。	夜勤者が利用者の起きる前の早朝4時頃に共有スペースの窓を全開にしており、利用者が起きるころに閉め、また居室の窓は食事の時間帯に対応しています。掃除は全体が夜間帯、利用者の居室は日中として、消毒はコンタクトポイントを実施しています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて日向ぼっこをしたり、新聞や雑誌を見たり、歌を歌ったり自席で過ごしたり、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はあるが、本人や家族と相談しながら、必要ない物は撤去し、持ち込みも自由にして頂き、本人が過ごしやすい様に位置を替えたりしています。	位牌や家族写真、テレビなどが自宅から持ち込まれ、一方事業所ではベット、鏡、筆筒、机を備えています。自分のものを使いたい場合は備えを外しています。また車いすの動線とともに手を使ってつたい歩きが出来るよう、ベッドなどの配置を職員が考えています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりが設置されており、安全に歩行出来る様にしています。ネームプレートを本人の好きな色に変更したり、目線の高さに合わせたり、分かりやすい表示を心がけています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200825		
法人名	株式会社 富士見プロジェクト		
事業所名	グループホーム さくら2号館 (2階ユニット)		
所在地	静岡県清水区蒲原中302-1		
自己評価作成日	令和6年9月2日	評価結果市町村受理日	令和6年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/a/Open?OpenAgent&amp;JNO=2294200825&amp;SVC=0001096&amp;BJN=00">https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/a/Open?OpenAgent&amp;JNO=2294200825&amp;SVC=0001096&amp;BJN=00</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和6年9月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平成22年8月2日に1階ユニットオープン。平成23年4月16日に2階ユニットオープンの施設です。JR蒲原駅から約徒歩5分、国道一号線富士由井バイパス蒲原西出口からもほど近い場所にあります。1年を通し日中は日当たり良好な駐車場や玄関にて日向ぼっこをしたり、イベントを開催しています。地区のお祭り際には当ホームの駐車場にて踊りを披露して下さったり、定期的に地区のボランティア様、不定期ですが散歩中の園児たちが来所して下さいと地域の方々に支えられています。また、シニアサポーターの様々なグループの皆様にも披露やお手伝いをしていただいています。医療面でも提携病院との連携体制や受診支援等により利用者様ご家族様に喜んでいただいております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域の皆さんとの交流とそのご縁を大切にしている事業所です。応援者として最も心強いのは元・自治会長とその奥様で、毎年の「子どもみこし」では駐車場を休憩場として提供することで踊り披露につながっていたり、「お菓子の詰め合わせを配りたいのだけど」といった問い合わせの窓口にもなっております。他にも植木鉢に花を植える活動を季節を問わず継続して下さる団体や舞踊や手品のボランティア訪問等々、地域の温かな思いやりに包まれた安寧があります。また管理者は書類に関する整備が高く、質問したことに関して「それはこの書類です」と、探すことなく提示して下さることには大いに安心感を覚え、信頼が膨らみました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員から募集し、タイムカードの上に展示し毎日職員が見る事により、共有を図っています。職員個々の意識の差はありますが、職員同士の声掛けにより意識が高まっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの5類移行後、地域のイベントも再開してきました。参加できる範囲での参加をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際には、自治会長、地域包括の方を通して認知症に関する相談等随時受け付けている旨を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の意見を聞いてサービス向上の参考にしています。最近は防災関連の話をしています。評価への取り組み状況等についてスタッフ会議で取り上げ話し合っています。運営推進会議は2ヶ月に1回奇数月に行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出の際の電話や郵送でのやり取りが多いです。それ以外での日常的な連携は不足気味ですが、地域包括センターを招き運営推進会議を実施しています。(2週間前に参加依頼を直接持参して情報交換をしていますが新型コロナの感染状況で書面でのやり取りを知る時があります)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしていますが、職員が2人介助等によりフロアの見守りが出来ない時、明らかに離脱等危険があると判断した時のみ、短時間施錠することがあります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払っている、防止に努めている	利用者の状態観察、異常の発見時の報告・記録を徹底し事業所内での虐待が見過ごされないように、職員同士が声を掛け合い注意を払っています。年2回の虐待防止検討委員会を開催し、同時に研修会を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	系列病院の看護師のアドバイスを受けています。本年はなかなか参加出来ていません。(オンラインでの開催が増えていますがなかなか参加出来ていません。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文章で説明は十分に行い理解・納得していただいています。(不明な点が後日あれば遠慮なく連絡をしてくださいと伝えています。)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対してはケアプラン説明時や電話連絡時や面会時等に意見・要望を伺っています。利用者に関しては管理者からの直接の聞き取りや、職員が要望を聞いた際の報告を通じ意見・要望を伺い必要に応じ運営に反映させています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談、アンケートを通じて職員の提案や意見を聞いて、必要に応じて反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、面談を行い人事考課制度を通じて、職員個々の実績や能力に応じた評価をして向上心を持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を支持し、職員個々の実績や能力の向上を進めています。(少ないですが少しずつ出来る様支援しています。)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流は出来ていません。研修などがあれば積極的に参加し交流を勧めたいです。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に対する不安に配慮しながら、傾聴し少しでも早く安心して生活できるように全職員意識して努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時や見学時に良く話を聞いて、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時やアセスメント時に本人と家族の意向をよく聞き、当ホームの方針を説明し、他施設・他サービスも考慮して状況に応じた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員によって意識の差はありますが、食事や家事を共に行い、共生を意識しながら関係構築をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所として出来る事出来ないこと、家族でなければ出来ないこと等を入所前に説明し、家族と職員が共に本人を支えていけるようにしています。家族が気軽に面会に来れる雰囲気作りやイベントの告知をし、参加を促し絆造りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染移行後、面会の緩和も予定していましたが施設での感染状況や他の施設及び病院などの面会状況などを参考にしています。今現在は玄関先での面会をお願いしています。(書類など本人の記入が必要な時には事務所で行って頂いています)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関わりを持ちながら、孤立する事なく円滑に人間関係が築けるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族がなかなかGHIに来られませんが、地域の利用者が多いので街中で家族とお会いすることもあります。その際には退所された利用者の様子などを伺っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時意向や思いの把握に努めていますが、困難なケースが多いです。家族の意向を考慮しながら本人本位になるように担当職員を中心に全職員で会議等で計画作成の為の話し合いをしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に極力把握出来る様に努めています。他にもご家族や友人が面会に来られた時、生活歴を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な記録・申し送りの他に状態変化の見られる方については、随時報告・連絡・相談を心掛けています。申し送りノートやスタッフ会議での職員間での情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはご本人・御家族の声を頂き、どこで暮らしたいか又サービス内容で何が未達成なのか明確にしています。担当スタッフの介護計画への関りを持ち長期目標・短期目標の達成を意識させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス実施記録を作成し日々、適切にサービスが実施されているかスタッフが項目毎に押印し月末に何が未達成なのかを明確にし短期目標の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族のニーズに対応し、柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿える様に支援しています。提携病院での受診を希望される場合は、付き添い介助をしています。その他の病院を希望される方はご家族対応で受診していますが、都合がつかない際には職員が付き添い介助しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康管理があります。他にも緊急時の対応指示を仰いだり、報告・連絡・相談を行ない看護師と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も連絡をとり状態把握に努め、入退院時の連携がスムーズに行えるように、情報交換や相談等病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の対応について話し、事業所として出来る事・出来ない事を説明し同意を得ています。また、重度化となる前の段階で家族と話し合う機会をもち、医療機関を紹介するまでの支援をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	R 6, 5月に施設内での避難訓練を行いました。今回は消防署や地域の方の参加は控えました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の事業所での防災訓練の他に、地区での防災訓練に参加しています。またその際に夜間訓練を想定し連絡簿を使いスムーズに状況説明ができる様に訓練しています。(新型コロナウイルス対策の為他事務所での訓練の開催が中止になっています。)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を指導していますが、言葉使いや態度が気になる職員もいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを表現しやすい雰囲気作りをして、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的なスケジュールはありますが、利用者個々の体調や気分、状況に応じて個別支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら好みの服を着て頂いています。女性利用者の中には毛染めをしたり、メイクをしたりおしゃれを楽しんでおられる方もいます。(決められない方は2択などの工夫をしています。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の役割として同じテーブルの方の片付けをされる方もいます。可能な方は調理準備や食器拭きなど関わっていただくこともあります。職員と利用者が一緒に食べながら、楽しく安全に食事出来るように配慮しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列病院の管理栄養士が献立を作成しています。食事量や水分量はチェック表で管理し過不足が無い様に支援しています。また、医師より塩分など控えるよう指示がある際には食事の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして、清潔保持に留意しています。洗浄剤による夜間の義歯洗浄も行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、日中はトイレで排泄出来るように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、適度な運動をしてもらい便秘予防に努めています。必要に応じ主治医・看護師に相談して薬の調節、食事形態の変更等個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決まっていますが、本人の希望や外出の予定等により、臨機応変な対応は可能。利用者のタイミングに合わせて入浴順や時間は適宜変更しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況に応じて、居心地の良い場所で休息出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み内服薬について理解する様に努めています。薬の変更があった際には申し送りノートで全職員が情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、床のモップ掛けや洗濯物たたみ等の本人の力を活かした役割をもつていただき、やりがいや喜びを感じていただける様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	良い天気時には外気浴を楽しんで頂いています。普段行けない様な場所にはご家族に協力をお願いしています。毎月の季節のイベントは室内で出来る事を企画して開催していますが今後野外でのイベントも考えています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行っていますが、本人の希望に応じて買い物や代行しています。病院受診の帰りなど希望がある時には買い物に同行して支払いも本人がするように努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で広く開放的な共有空間で、思い思いに居心地よく過ごせるように配慮しています。室温・湿度の管理にも気を配っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて日向ぼっこをしたり、新聞や雑誌を見たり、歌を歌ったり自席で過ごしたり、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はあるが、本人や家族と相談しながら、必要ない物は撤去し、持ち込みも自由にして頂き、本人が過ごしやすい様に位置を替えたりしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりが設置されており、安全に歩行出来る様にしています。ネームプレートを本人の好きな色に変更したり、目線の高さに合わせたり、分かりやすい表示を心がけています。		